

たかねやま

多治見市立根本小学校

令和5年9月29日

No.7

～「精一杯生きる」とは・・・～

校長 横山 美智代

根本小学校では、「人と人とのかかわりを大切に ～自他の命を慈しむ心の育成～」を経営の重点に行っています。9月は防災月間に関わらせて命の大切さを考えるため、全学年の道德の時間に「生命の尊さ」の内容を位置づけて授業を行いました。

6年生の授業を紹介します。「死」という言葉をゲームや会話で簡単に使ってしまう子どもたちが、命の意味や重みを深く考え、限りある命を懸命に生きようとする心情を育てる授業でした。子どもたちの授業の感想です。

- ・誰かと自分を比べるのではなく、自分らしく自分で歩いて生きていくことだと思う。
- ・つらいことがあっても、簡単に死のうとしない。命の重みを考えて、簡単にあきらめずに生きていくことだと思う。
- ・自分を信じて、どんな困難にぶつかっても生きていくことだと思う。
- ・人にやさしくし、自分の良いところを見つけてみんなで幸せに楽しく生きていくことだと思う。…



考えを交流する児童

自分の命はかけがえのない命であることに気づき、自分に与えられた命の重みを自分や友達とじっくりと向き合い考える授業になりました。

命の大切さについて考えた子どもたちは、10月4日に通学班会を行い、自分や仲間の命を守って安全に登下校するためにできることを考えます。保護者や地域の皆さんに来ていただいて通学路の危険箇所を一緒に考えます。

なかよし活動

1～6年生までの異学年でグループを作り、昼休みに遊びました。6年生が最高学年としてグループをまとめ、低学年を思いやりたり低学年が高学年のやさしさに喜んだりするなど、見ていて微笑ましい姿がたくさんありました。子どもたちはかかわりの中で相手を思うことの大切さを学び、自己有用感を高めています。



ころがしドッジ

親育ちコーナー

心の中のエネルギータンク②

親育ち4363たじみプラン 事務局

エネルギータンクが、ほとんど空になっているその子に私たちができること。それは、「あなたが大好きで、大切に思っているよ」「ありのままのあなたを受け止めるから、私の前では安心していいよ」という思いを、言葉で、表情で、仕草や立ち居振る舞いで、目の前のこの子に伝えようと、決意し実行することではないでしょうか。

気持ちが浮ついていて、力が抜けている、できるのにしない。そんな姿が、実はエネルギー切れの表れであり、今のその子の精一杯かもしれません。少なくとも「そうかもしれない」という冷静さを、私たちが心に置いてかける言葉は、それが賞賛や励ましばかりでなく、注意や叱責であったとしても、その子の心にエネルギーを補充するはずです。

北風と太陽の寓話があります。花を美しく咲かせるために、あえて霜にあてるときがあります。しかし、伸びやかに育つには、太陽の光と温もりを欠かすことはできません。

親子が互いに「言われてうれしかった・悲しかった言葉」をまとめた実践があります。右のQRコードからご覧ください。言葉で、表情で、多治見の子どもたちの、心の中のエネルギータンクを満たそうではありませんか。

(教育推進課 家庭教育担当)